

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限	
児童家庭福祉 I Welfare of Children and Family I		1年	前期	別途、時間割参照	
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限	
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)		児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目					
保育士養成課程必修科目					
同時に履修しておくことが望まれる科目					
保育士養成課程必修科目					
担当者に関する情報					
氏名		研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫		講義棟2階	月・火・水・木の8時から18時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要					
近年、超高齢社会の中における高齢者問題が最重要課題となっているが、児童を取り巻く社会は複雑化・多様化しており、少子化などの児童と家庭を取り巻く状況にも多くの問題をはらんでいる。現代社会を軸としながら児童の福祉全般について学んでいき、児童家庭福祉の理解とその実践力を図る。					
授業の目標					
①社会システムは児童にとってどのような影響を及ぼしているのか理解し、説明することができるようにする。 ②児童福祉の現状と諸問題及びそれに対応する諸制度及び施策について理解し、説明することができるようにする。 ③児童及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解し、説明することができるようにする。 ④児童の権利について理解し、説明することができるようにする。					
授業の方法					
基本的に講義形式で授業をおこなう。また、自ら考えて実践できる力を養うために、事例に対する対応について考える。					
学習の成果（学習成果）					
高度の社会システムは児童にとってどのような影響を及ぼしているのか、児童福祉の現状と諸問題及びそれに関連する諸制度及び施策について理解し、その対応について考えることができる。					
授業のスケジュールと内容					
第1回目	ガイダンス・児童福祉の理念－児童福祉の理念とは				
第2回目	児童家庭福祉の理念－児童家庭福祉の発達について 歴史的変遷				
第3回目	児童家庭福祉の理念－児童の権利とは				
第4回目	現代社会における児童家庭福祉－現代社会の児童問題				
第5回目	現代社会における児童家庭福祉－少子・高齢化について				
第6回目	現代社会における児童家庭福祉－子育て支援サービスについて				

第7回目	児童家庭福祉の法体系と実施体制－児童憲章と児童福祉法について	
第8回目	児童家庭福祉の法体系と実施体制－施策の体系と児童福祉施設について	
第9回目	母子福祉対策について（ひとり親家庭の支援）	
第10回目	母子福祉対策について（DVへの対応）	
第11回目	障害児の福祉について	
第12回目	障害児に対する支援について	
第13回目	児童を取り巻く諸問題　児童虐待①	
第14回目	児童を取り巻く諸問題　児童虐待②	
第15回目	児童家庭福祉の専門職とその連携について　授業のまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
テキスト「保育実践と家庭支援論」。その他、授業内で適宜資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
私語禁止。飲食禁止。		